

提出締切：2009年1月15日

2006年度学内提案公募型研究推進プログラム「基盤的研究」 研究成果報告書
(研究期間：2007年2月～2008年12月末日まで)

研究代表者	所属機関・職名： 文学部・教授 氏名： 生田真人
研究テーマ	東南アジアの地域統合とマレーシアの都市・地域政策の再編

I. 研究計画の概要

研究の計画について、概要を記述ください。

マレーシアは、東南アジアにおける地域統合の進展に際して、地理的に重要な位置を占めている。本研究では、マレーシア経済の中核である首都圏に加えて、マレー半島北部と南部、それから東マレーシアからそれぞれ1つの地方中枢都市を取り出して合計4都市地域を主な研究対象として、この国が、経済成長を維持しつつ地域間格差を是正するための都市政策ならびに地域開発政策について検討する。その際に特に、国境を越える都市・地域間関係の再編動向に注目する。国際的な観点からのこのような研究は、マレーシアのみならず隣接諸国の都市地域開発を検討する際にも参考になる研究成果を提供しうが、そのために次の3つの研究課題を提出したい。

すなわち、課題1) 国境を越える産業経済交流の実態に関する分析、課題2) 国内の都市地域間における産業経済交流の実態に関する分析、課題3) 国際的レベルの地域統合に伴うマレーシアの都市地域政策の再編に関する分析、の3点である。

II. 成果の概要

今年度の成果について、概要を記述ください。詳細は3ページに記述ください。

上記の3課題を研究するために、4都市地域を対象に調査を進めた。調査地域は、マレー半島では北部の工業集積地ペナン、クアラルンプール首都圏、シンガポールに隣接するジョホールバルとした。また、半島部とは大きく異なる政治・経済状況下にある東マレーシアについては、連邦直轄領として開発の進むラブアン島を選定した。

まず課題1については、国境を超える経済交流は、産業活動が東マレーシアより活発なマレー半島部において大きいことがわかった。主にマレー半島中部の首都圏とそれから半島南部のジョホール州などで相対的に大規模に行われていることがわかった。前者は、マレーシアの主要な国際交流拠点であり、東南アジア諸国のみならず、先進国との間にヒト・モノ・カネに関わる多面的な交流量が多い。後者はことにシンガポールとの間で進展している。

次に課題2について、マレー半島と東マレーシアの間には地理的な距離の問題に加えて、両地域は連邦政府への統合のされ方が異なるので、都市間交流は少ない。また、マレー半島内では分散的な性格を持つ地域経済が形成されており、他の東南アジア諸国とはかなり異なった特徴がある。

最後の第3課題に関連して、マレーシア連邦政府は首都圏を除く地方圏で、多様な国際的連携を計画していることがわかった。この国境を越える国際的な都市・地域開発は、ジョホールバル都市圏、シンガポール、インドネシアのリアウ群島を含むいわゆる成長の三角地帯で先行してきた。連邦政府はこの開発の経験に基づいて、国内の他の周辺地域でも隣接国(タイ、インドネシア、ブルネイ、フィリピン)と連携しながら都市地域開発を進めている。それらの都市地域は現在、各種基盤施設を国際的に共同して開発するための計画策定の段階にある。

本ページはホームページに公開いたします。1ページに収めてください。